

平成 24 年 問 6

問題 【難易度】 ★★★☆☆ (普通)

二つの電力系統 A, B がある。それぞれの電力系統は図 1 に示すように、1 発電機、1 負荷で表され、一つの送電線で連系されているものとする。発電機 A, B の容量はそれぞれ 80 [MW] とし、それぞれの負荷の負荷確率分布は図 2 に示す折れ線 $F(L)$ (負荷電力が L を超える確率) であるとする。このとき、電力系統 A の電力不足確率 (LOLP) を、次の場合につき小数第 3 位まで求めよ。

- (1) 送電線が使用されていない場合。ただし、発電機 A の事故停止確率は 0 とする。
- (2) 送電線が使用されていない場合。ただし、発電機 A の事故停止確率は 0.02 とする。
- (3) 送電線が使用されている場合。ただし、発電機 A, B の事故停止確率はともに 0 とし、負荷 A, B の負荷変動は互いに独立しており、送電線の損失は無視するものとする。

また、電力系統 B から電力系統 A への電力融通は、次の条件とする。

- ① 電力系統 A の発電電力が電力系統 A の負荷電力を下回るとき
- ② 融通電力は電力系統 B の発電電力の余力分まで
- ③ 送電線の送電容量は 10 [MW]

なお、 $f(L) = -\frac{dF}{dL}$ は確率密度関数と呼ばれ、 $f(L)dL$ は負荷電力が $L \sim L + dL$ である確率を表し、 $F(L) = 1 - \int_0^L f(L)dL$ の関係がある。

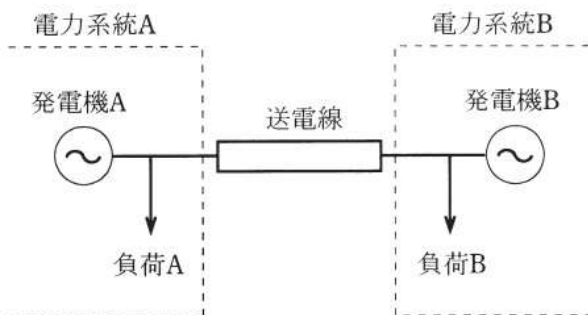


図 1

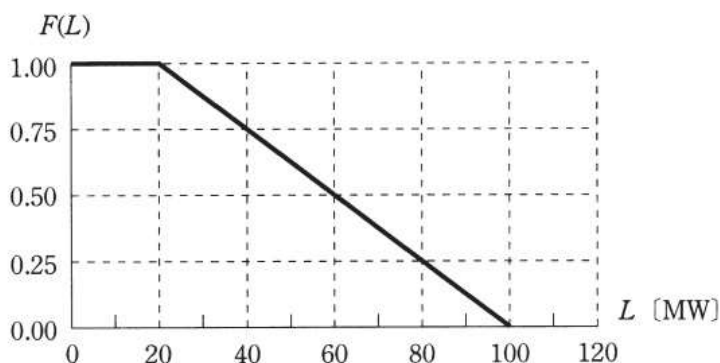


図 2

【正答チェック表】

日にち						
(1)						
(2)						
(3)	①					
	②					
	③					

(2) $\alpha = \frac{\pi}{3}$ のときの出力電圧 v_d の最大値 V_{\max}

$\alpha = \frac{\pi}{3}$ のときの各出力電圧 v_{d1} , v_{d2} は図 2-2 の通りとなる。図 2-2 より、出力電圧 v_d の最大値 V_{\max} は、図 2-2 の $\theta = \frac{\pi}{6}$, $\frac{\pi}{3}$, $\frac{\pi}{2}$, $\frac{2}{3}\pi \dots$ の時であり、その大きさは、

$$\begin{aligned} V_{\max} &= \sqrt{2}V \sin \frac{\pi}{3} + \sqrt{2}V \sin \frac{\pi}{6} \\ &= \sqrt{2}V \left(\frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{1}{2} \right) \\ &= \frac{\sqrt{2}(\sqrt{3} + 1)}{2} V \end{aligned}$$

と求められる。

(3) 電源電流 i_U [A] の波高値 I_{\max}

各電流を I_d で表すと、 i_{u1} , i_{u2} , i_{w2} の最大値は I_d であるから、 i'_{u2} , i'_{w2} の最大値は $\frac{I_d}{\sqrt{3}}$ となるので、

$$i_{U2} = i'_{u2} - i'_{w2}$$

より、 i_{U2} の最大値は、 $\frac{2I_d}{\sqrt{3}}$ となる。

よって、電源電流 i_U [A] の波高値 I_{\max} は、

$$I_{\max} = I_d + \frac{2I_d}{\sqrt{3}} = \left(1 + \frac{2}{\sqrt{3}} \right) I_d$$

と求められる。

(4) 電源電流 i_U の実効値 I_U

図 2 より、 i_U の値は、

$$i_U = \begin{cases} \frac{1}{\sqrt{3}} I_d & (\alpha < \theta \leq \frac{\pi}{6} + \alpha) \\ \left(1 + \frac{1}{\sqrt{3}} \right) I_d & (\frac{\pi}{6} + \alpha < \theta \leq \frac{\pi}{3} + \alpha) \\ \left(1 + \frac{2}{\sqrt{3}} \right) I_d & (\frac{\pi}{3} + \alpha < \theta \leq \frac{\pi}{2} + \alpha) \end{cases}$$

であり、実効値 I_U は、

$$\begin{aligned} I_U &= \sqrt{\frac{1}{\pi} \int_{\alpha}^{\pi+\alpha} (i_U)^2 d\theta} = \sqrt{\frac{2}{\pi} \int_{\alpha}^{\frac{\pi}{2}+\alpha} (i_U)^2 d\theta} \\ &= \sqrt{\frac{2}{\pi} \left[\int_{\alpha}^{\frac{\pi}{6}+\alpha} \left(\frac{1}{\sqrt{3}} I_d \right)^2 d\theta + \int_{\frac{\pi}{6}+\alpha}^{\frac{\pi}{3}+\alpha} \left\{ \left(1 + \frac{1}{\sqrt{3}} \right) I_d \right\}^2 d\theta + \int_{\frac{\pi}{3}+\alpha}^{\frac{\pi}{2}+\alpha} \left\{ \left(1 + \frac{2}{\sqrt{3}} \right) I_d \right\}^2 d\theta \right]} \\ &= \sqrt{\frac{2}{\pi} I_d^2 \left\{ \int_{\alpha}^{\frac{\pi}{6}+\alpha} \frac{1}{3} d\theta + \int_{\frac{\pi}{6}+\alpha}^{\frac{\pi}{3}+\alpha} \left(\frac{4}{3} + \frac{2}{\sqrt{3}} \right) d\theta + \int_{\frac{\pi}{3}+\alpha}^{\frac{\pi}{2}+\alpha} \left(\frac{7}{3} + \frac{4}{\sqrt{3}} \right) d\theta \right\}} \\ &= \sqrt{\frac{2}{\pi} I_d^2 \left\{ \frac{1}{3} \cdot \frac{\pi}{6} + \left(\frac{4}{3} + \frac{2}{\sqrt{3}} \right) \frac{\pi}{6} + \left(\frac{7}{3} + \frac{4}{\sqrt{3}} \right) \frac{\pi}{6} \right\}} = \sqrt{\frac{1}{3} I_d^2 \left\{ \frac{1}{3} + \left(\frac{4}{3} + \frac{2}{\sqrt{3}} \right) + \left(\frac{7}{3} + \frac{4}{\sqrt{3}} \right) \right\}} \\ &= \sqrt{\frac{4 + 2\sqrt{3}}{3}} I_d \doteq 1.5774 I_d \rightarrow 1.58 I_d \end{aligned}$$

と求められる。

(5) 電源電流 i_U の基本波成分の実効値 I_{Uf}

ワンポイント解説「1.フーリエ級数展開」において、図 2 の $\theta = \alpha$ を基準にすると、 i_U は奇関数となるため、 $a_0 = a_1 = 0$ となり、

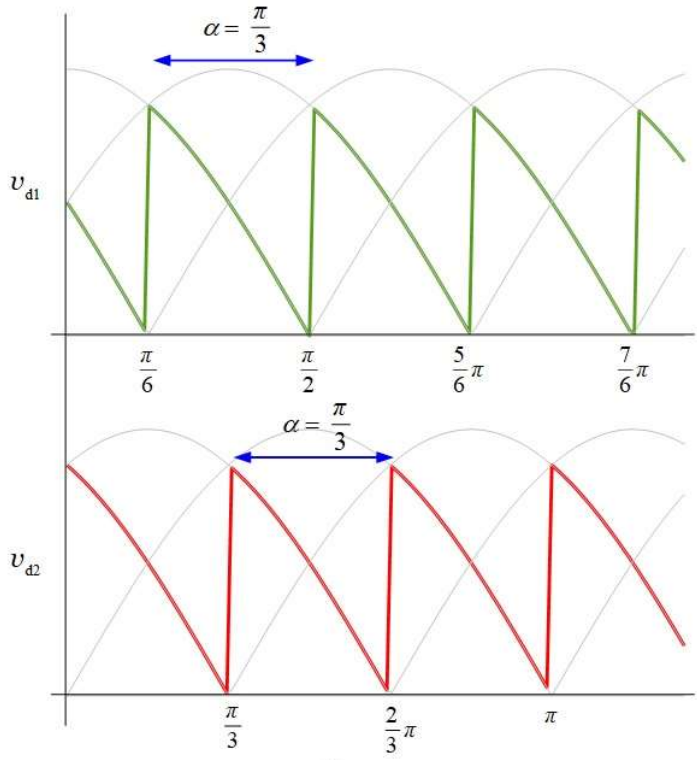


図 2-2